

平成28年度

全国学力・学習状況調査の結果概要をお知らせします

国語の基礎・基本の定着については合格点！

平成28年4月19日に「全国学力・学習状況調査」が行われました。

〔調査内容〕

- 小学校6年生、中学校3年生の全児童・生徒が対象
- 教科に関する調査は、国語、算数・数学の2教科
- 国語、算数・数学に関する調査は、「知識」に関する問題A、「活用」(知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力等)に関する問題Bを出題
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- 差が5%未満の場合は「やや高い(低い)」、差が5%以上10%未満の場合は「高い(低い)」

この調査は、教科に関する調査と質問紙調査とで構成されています。児童・生徒の学

力の全てを見ることのできるものではありませんが、町内の各学校では、この結果を一つの手がかりとして分析し、成果と課題を明らかにして、今後の教育活動に生かしていくようにしています。

また、大山町教育委員会では、学校の取り組みの進捗状況を把握しつつ、教科に関する調査と質問紙調査を総合的に分析し、検討を行いながら、より質の高い教育の実現に向

	平均正答率 (%)			
	国語A	国語B	算数A	算数B
大山町	78.5	59.3	76.8	45.8
鳥取県	75.2	58.0	77.0	46.8
全国	72.9	57.8	77.6	47.2
全国との差	5.6	1.5	-0.8	-1.4

	平均正答率 (%)			
	国語A	国語B	数学A	数学B
大山町	77.3	68.0	59.7	43.9
鳥取県	76.7	67.1	63.2	44.4
全国	75.6	66.5	62.2	44.1
全国との差	1.7	1.5	-2.5	-0.2

けて取り組んでいきます。

〔算数・数学に課題あり〕

○ 小学校6年生(表1)について、大山町の平均正答率は、国語Aで全国より高く、国語Bで全国よりやや高くなっています。

また、算数A・Bともに、全国よりやや低くなっています。

表からは読み取れませんが、小学校国語Aの「言語についての知識・理解・技能」の観点においては、全国より9・9%も高く非常に良好な結果となっています

○ 中学校3年生(表2)について、大山町の平均正答率は、国語A・Bともに全国よりやや高く、数学A・Bが全国よりやや低くなっています。

表からは読み取れませんが、中学校国語Aの「話す・聞く能力」の観点においては、全国より3・5%高く良好な結果となっています。

○ 小学校6年生・中学校3年生ともに、算数・数学の平均正答率が全国よりやや低く、特に中学校数学Aの「資料の活用」領域においては、全国より6・5%低い結果となっています。

〔小・中連携を通して、授業改善を〕

大山町では、小中学校の連携を進めながら、各学校の授業改善に力を入れています。

町独自の学力向上事業である「大山町小中連携学力向上推進事業」(各中学校区)に取り組み、9年間を見通した児童・生徒の育ちと学びについて共通した取り組みを進めています。

また、町教育振興会を活用し、研究主任会や教務主任会を合同で開催し、学力向上について、各中学校区や各学校の取り組みの成果、課題について情報共有し、授業改善等に生かしています。

	質問事項	肯定的な回答割合			
		全国	鳥取県	大山町	全国との差
小学校6年生	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	67.0	71.4	76.1	9.1
中学校3年生	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	62.2	65.4	72.7	10.5
小学校6年生	算数の授業で新しい問題に出ったとき、それを解いてみたいと思いますか	75.8	76.0	70.1	-5.7
中学校3年生	数学ができるようになりたいと思いますか	91.3	91.4	87.0	-4.3

大山町の児童・生徒は、「自分の考えを根拠をもとにまとめて書く力」に課題がありますが、(表3)からもわかるように、「自分の考えを話したり書いたりする時間」を大切することにより、成果が表れつつあります。

算数・数学においては、児童・生徒が「問題を解いてみたい」と思えるような導入や「算数・数学がわかった、できた」と感じられるようなまどめの工夫を大切にして授業改善を進める必要があります。